



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第38号 (2012年8月31日)

評議委員会／第8回総会を開催

6月28日(木)に「評議委員会」、8月29日(水)に「第8回総会」が開催され、以下の内容で承認されましたのでご報告いたします。

【評議委員会】

- ◇開催日時：2012年6月28日(木) 17:30～20:00
- ◇会場：サントリーホール・M2会議室
- ◇出席者(10名・敬称略)：
(会長) 堤 剛 (副会長) 中島 顕、堀 了介
(評議委員) 山崎伸子、荻田雅治、石島栄一
(会員) 渡邊 亮
(事務局) 飯田芳憲、八反田弘、佃香菜子

【第8回総会】

- ◇開催日時：2012年8月29日(水) 18:00～20:00
- ◇会場：サントリーホール・M2会議室
- ◇出席者(17名・敬称略)：
(会長) 堤 剛 (副会長) 中島 顕、堀 了介
(評議委員) 倉田澄子、山崎伸子、毛利伯郎、石島栄一
(会員) 小倉千秋、伊藤七生、周藤清子、
松崎松平、三木隆二郎、芳山朋史、
(事務局) 飯田芳憲、八反田弘、渡邊 亮、佃香菜子

◇議 題：

1. 2011年度活動報告
2. 2011年度会計報告
3. 2012年度活動予定(案)
4. 2012年度予算について(案)
5. 第3回「チェロの日」企画運営(案)
6. その他

◆2011年度活動報告

- 会報発行 年3回発行
(4月30日第35号発行、8月31日第36号発行、3月31日発行)
- ホームページ運営
コンサート情報 24件掲載
イベント情報 1件
- チェロサロン開催 年1回開催
・2011年10月10日(月・祝) 堀 了介先生
於：サントリーホール・リハーサル室
- 第2回「チェロの日」開催
・2012年2月11日(土)
<チェロ・リレー・コンサート>
於：サントリーホール・ブルーローズ
来場者数：2公演合わせて371名
・2012年2月12日(日) <チェリストの集い>
マスタークラス(講師)：ルイス・クラレットさん
オーケストラ・スタディー(講師)：幸田有哉さん
全体アンサンブル(指揮)：山本祐ノ介さん
於：サントリーホール・ブルーローズ
来場者数：149名
<アンサンブル参加者75名
(会員58名、非会員17名)>
ボランティアスタッフ：6名 事務局：3名
・チェロの日特設サイト開設
- 評議委員会開催 年2回開催
・2011年7月17日(日)
於：サントリーホール・M2会議室
・2011年10月26日(水)
於：サントリーホール・応接室
- 会計監査：2012年8月23日(木)
監査役：藤井直氏、芳山朋史氏



○会員総数

2012年3月現在 271名

賛助会員：

- [法人] サントリーホールディングス(株)、
(有)リュウカンパニー、
(株)パシフィック・コンサート・マネジメント
- [個人] 春日裕文氏、レオニードグルチン氏

○マスタークラス開催

年1回開催

- ・秋頃：タチアナ・ヴァシリエヴァさん（日時未定）
- ・2月：第3回「チェロの日」に於いて

◆2011年度会計報告
別表添付

◆2012年度活動予定

○総会、評議委員会開催

- a. 総会 8月29日（水）
於：サントリーホール・M2会議室
- b. 評議委員会
年2回開催する（6月28日、秋予定）

○会報発行

年2～3回発行予定
(38号：8月、39号・40号：12月～3月予定)

○ホームページ運営

- ・コンサート情報：会員の方、評議委員の先生方の
コンサート情報
- ・イベント情報：コンクール、イベント情報
- ・著作物情報

○チェロサロン開催 年1～2回開催

講師未定
開催場所：東京以外（関西ほか）での開催を検討

◆2012年度予算
別表添付

◆第3回「チェロの日」について

2013年2月9日（土）～11日（月・祝）開催決定
於：サントリーホール・ブルーローズ
(詳細は別紙参照)

◆役員人事

- 現役員は全員留任する。
- 会計監査役員渡邊亮の退任に伴い、後任として会員
の芳山朋史が監査役に就任。
- 渡邊亮氏が事務局スタッフ（企画担当）に就任。
(会 長) 堤 剛
(副 会 長) 中島 颯、堀 了介
(書 記) 山崎伸子
(評議委員) 上村 昇、荻田雅治、倉田澄子、
河野文昭、斎藤建寛、毛利伯郎、
児玉 真、石島栄一、飯田芳憲
(会計監査) 藤井 直、芳山朋史
(事 務 局) 飯田芳憲（事務局長）、
八反田弘（事務局次長）、
渡邊 亮（マネージャー／企画制作）、
佃 香菜子（専任スタッフ）

【収入の部】

日本チェロ協会 2011年度決算報告

2012年3月31日

(単位：円)

項 目	2011年度予算額	2011年度決算額	予実差異	摘 要
会 費	1,400,000	1,622,000	222,000	賛助：(法人：340,000<3社>)(個人：10,000*2)一般：1026,000(171名*6,000) 学生：96000(32名*3,000)入会金：26,000(26名*1,000)過去未納分114,000
入 場 券	50,000	11,000	-39,000	チェロサロン10月：37名(非会員11人分の参加費)
チェロコンgres	3,200,000	2,154,700	-1,045,300	
雑 収 入	-	30,676	30,676	受取利息、寄付(30,000)
仮 受 収 入	-	10,000	10,000	
小 計	4,650,000	3,828,376	-821,624	
前 年 度 繰 越 金	2,832,214	2,832,214	-	
計	7,482,214	6,660,590	-821,624	

【支出の部】

(単位：円)

項 目	2011年度予算額	2011年度決算額	予実差異	摘 要
会 報 作 成 費	400,000	393,750	-6,250	会報35、36号、37号
通 信 費	120,000	273,070	153,070	会員証、会報、イベントちらし、DVD等発送 電話料金 ドメイン使用料
便箋・封筒等の制作費	21,000	113,130	92,130	葉書、封筒作成費(49,350) 郵送用の箱・バック代等
総会・評議委員会経費	200,000	6,699	-193,301	評議委員会交通費、総会交通費
事 務 諸 経 費	20,000	53,677	33,677	消耗品、振込手数料(22,810)等
会 員 証 作 成 費	3,000	3,059	59	会員証用紙・ラミネートフィルム
事 業 費	400,000	173,242	-226,758	パソコン・複合機(151,580)、交通費
ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	300,000	252,000	-48,000	HP維持費
予 備 費	100,000	-	-100,000	
チェロコンgres繰入金	2,794,764	2,641,701	-153,063	
チェロコンgres		12,061	12,061	
小 計	4,358,764	3,922,389	-436,375	
次 年 度 へ の 繰 越 金	3,123,450	2,738,201	-385,249	
計	7,482,214	6,660,590	-821,624	

第2回「チェロの日」出演のお二人にインタビュー!

2月12日(日)、第2回「チェロの日」に特別出演をして下さった若手チェリストのお二人にお話をうかがいました。インタビューでは、ご自身のチェリストとしての歩みやコンクールの経験などの生の声を聞かせて頂きました。

岡本侑也さん (8月20日)



—岡本さんは、幼少期に生まれてきたドイツで、音楽学校の見学をなさったことがチェロを始めるきっかけと伺っておりますが(チェロ・コングレスのパンフレットより)、その時の様子をお聞かせ頂けますか。

チェロを始める前は家でピアノを習っていましたが、せっかくドイツにいるならば、ドイツの音楽教育、特に

弦楽器を学ばせたいという親の気持ちがあり、音楽学校に見学に行くことになりました。私自身は当時人見知りということもあって、新しいことに挑戦するという気持ちはなかったのですが…。お話し下さったチェロの先生がとても優しい雰囲気のある方で「この方なら習いたいな」と思いこの楽器を始めることになりました。

—何歳くらいの時だったのですか?

6歳の時に音楽学校を見学しました。

—チェリストになっていなければ、何になっていたと思いますか。

サッカーが好きでやっていたので、その道を歩んでいたのだと思います。実は、小学校高学年までサッカーかチェロか迷っていたのですが、両親も音楽をやっていたということもありましたし、足が速くなかったので技術的に無理かなということも考えて、音楽の道を選びました。

—チェロ以外に好きな学科、得意な学科などはありますか?

体育が好きで、その時間にサッカーもやっていますが、基本的に体を使うことが好きです。やはり発散することは気持ちいいですね。

—好きな食べ物は何ですか?

日本食が好きで基本的に何でも食べますが、特に納豆が好きです。あとは、ドイツ食ではパンが好きですね。スライスしたパンやブレッツェルなんかをよく食べます。この間もドイツのマスタークラスに行っている間、沢山

【収入の部】

日本チェロ協会 2012年度予算

2012年3月31日

(単位:円)

項目	2011年度決算額	2012年度予算額	摘要
会費	1,622,000	3,750,000	賛助会費合計:2,250,000一般、学生、入会金合計:1,500,000
入場券	11,000	100,000	マスタークラス、チェロサロン
チェロの日	2,154,700	2,695,000	受取利息等
雑収入	30,676	-	受取利息等
仮受収入	10,000	-	
小計	3,828,376	6,545,000	
前年度繰越金	2,832,214	2,738,201	
計	6,660,590	9,283,201	

【支出の部】

(単位:円)

項目	2011年度決算額	2012年度予算額	摘要
通信費	393,750	400,000	131,250円×3回(第38~40号)
便箋・封筒等の制作費	273,070	270,000	会員証、会報、イベントちらし等発送
総会・評議委員会経費	113,130	110,000	マスタークラス1回:200,000/チェロサロン2~3回:200,000
事務諸経費	6,699	100,000	評議委員会軽食代、交通費
会員証作成費	53,677	1,820,000	事務局人件費、他
事業費	3,059	3,000	会員証台紙
ホームページ運営費	173,242	400,000	マスタークラス1回:200,000/チェロサロン2~3回:200,000
ホームページ運営費	252,000	300,000	メンテナンス21,000円×12ヶ月/コンテンツ作成 50,000円
予備費	-	-	
チェロの日	2,641,701	3,142,953	
雑費	12,061		
小計	3,922,389	6,545,953	
次年度への繰越し	2,738,201	2,737,248	
計	6,660,590	9,283,201	

食べてしまいましたので、今は少し太り気味です（笑）。
—幼少期に思い描いていたチェリスト像というものはありましたか？

小学校の頃は、カザルスに大変憧れて彼のバッハのCDをよく聴いていました。特に風邪で寝込んでいる時に、彼の演奏を聴くと元気を取り戻した記憶があります。その他にはデュプレのハイドンなども聴いていましたが、カザルスの崇高な感じに憧れていました。

—小学生のいつ頃までドイツにいらしたのですか？

小学校4年生の2学期に帰ってきました。

—ご自身のチェロを学ぶ環境はいかがでしたか？

ドイツでは学校が必ず午前中で終わるので（小学校）、練習の時間が沢山ありマイペースにできました。日本に帰国した当初は、日本語の勉強に追われたこともあって、時間的な違いというものを感じました。高校に入るまで、専門的に音楽を志している人が周りにいなかったため、孤独とまではいきませんが、中学時代は少し寂しい思いをしたこともありました。逆に周囲にチェロをやっている人がいなかったため、焦らず自分のペースで音楽を続けることができたのかもしれない。

—チェロを学ぶ上で障害になったことはありますか？

特に小中学生の頃は、汗をよくかいたので、チェロを弾く時に、左手は滑り過ぎてしまい、右手は弓が持ちにくく大変でした。自分の身体の状況が変わるという希望を持って待つしかありませんでした。逆にこの間ドイツのマスタークラスでは、野外コンサートの経験をさせて頂いたのですが、空気が大変乾燥していたために、かえって指の滑りが悪く、少し湿ったくらいがちょうど良いことがわかりました。

—共にチェロを学ぶ仲間との存在についてどうお考えになりますか？ そのような仲間は近くにいましたか？

大変重要だと思います。もし中学生の頃にそのような仲間が周りにいたとしたら、早いうちから声をかけあって室内楽とかできたかなという思いがあります。また、互いに専門的な技術を高め合うことができたのかとも思います。

—コンクールの場では、チェリスト同士の関係をどう捉えていますか？

あまり周りを意識せず、自分の演奏ができれば良いなという気持ちで取り組んでいます。ある講習会ではコンクールに出るメンバーが揃っていたのですが、沢山良い刺激を受けてもっと頑張らなければという気持ちになりました。

コンクールの場では、自分の演奏をできればというふうに切り替えて、マイペースにできればと思っております。

—共にチェロを学ぶ仲間同士、出会う機会は多いのですか？

現在は音楽高校に通っているので、学校や外部の講習会で出会う機会は多いです。

—小・中学生の頃に比べて演奏の場というのは増えましたか？

そうですね。例えば日本に帰ってきた頃は、年に1度の門下生のおさらい会やコンクールで弾かせて頂くという機会しかありませんでしたが、高校に入ってから学校内でコンサート等があるので、ソロだけではなく室内楽もというように増えました。

—普段、同世代の方のチェロの演奏を聴く機会はありま

すか？

学校で門下生の試演会が2ヶ月に一度くらいのペースであります。

—他の方の演奏を聴いてどうお感じになりますか？

すごく刺激になりますし、同世代の方の演奏からは触発されます。

—岡本さんにとってのコンクールの魅力とは何ですか？

今回は特に本選でオーケストラと演奏させて頂けることが大きな魅力でした。コンクールで弾くというよりは、「お客様の前で演奏する」という意識を高めることができましたし、ホールもオペラシティで規模がとても大きかったので、今までにない経験をさせて頂けるというのが魅力でした。やはりコンクールにいらっしゃるお客様は音楽が好きの方、専門的な知識を持っていらっしゃる方が多いので、その方々に聴いて頂けたことも嬉しかったです。

—コンクールによって学んだもの、得たものは何ですか？

実は2次予選の時、気持ちも悪く、38度の熱が出ておりました。体調管理の重要性を痛感しました。でも今から考えると、ある意味悪いコンディションの中で弾くという体験ができてよかったとも感じています。逆に熱があったからこそ身体が脱力できましたし、余計なことを一切考えずに演奏することができました。色々な意味で良い経験ができたと思っています。数年分の経験を一度にまとめてさせて頂いていただいたような感じです。

—これからのチェリストとしての展望についてお聞かせください。

お客様に「また岡本侑也の演奏を聴いてみたい」と思っ頂けるような演奏家になりたいです。また、スケールの大きい豊かな演奏ができるように、いつも心がけたいと思います。チェロを演奏するというだけでなく、様々な分野の勉強をして、自分の道を開拓できればと思っています。

—これからチェロを始めようとする子どもたちにメッセージを送るとすれば、どのような言葉を贈りますか？

私自身チェロを始めた頃はとても大変でした。ピアノと違って左右で違う動きをしたり、楽器の仕組みやシステムを覚えるのは一苦労でした。でも1つの曲が仕上がった時には、例えば技巧的な曲ですと、弾いていてすごく爽快感があって本当に楽しい経験をしてきました。そういう楽しさ、心地よさもぜひ味わってほしいです。チェロだけでなく、他の楽器とのアンサンブルで全く別の面白さを味わうことができますし、オーケストラで弾くという魅力もあります。まだ自分も大層なことは言えませんが…。最初はどんなに面倒でも、一度弾ける喜びを知るとハマってしまいます。ぜひトライしてみてください。

—国内外関わらず、この音楽ホールで演奏したいというご希望などはありますか？

サントリーホール（大ホール）や、遠い話かもしれませんが、ゲヴァントハウスとか憧れますし、ベルリンのフィルハーモニー、オランダのコンサートヘボウなど伝統あるオーケストラ、ホールに惹かれます。

—最後に第2回「チェロの日」の演奏についてご自由にお聞かせ下さい。

チェロを愛する皆様の前で弾かせて頂くというのは嬉しかったですし、とても暖かく見て、聴いて頂いて幸せ

でした。大人数でのチェロ・アンサンブルは初めての経験で、皆様と純粋に音楽を楽しむことができ、また提先生を始めとして錚々たるメンバーの方々の中で弾かせて頂くことは大変光栄なことでした。毎回日本を代表するチェリストの方々が出演されるので、その先生方の演奏を身近に聴かせていただき、とても勉強になりました。この貴重な体験を忘れずに、これからも日々精進して行きたいと思います。

上村文乃さん (8月24日)



—上村さんは、3歳でピアノ、6歳の時にチェロを始められたと伺っていますが、始められたきっかけは何でしょうか？

もともと両親が音楽好きだったという事もありますが、ピアノは指を独立して動かすので脳のトレーニングになるという思いがきっかけでした。また、何か1つ人より秀でたものを持たせたいという両親の願いもあり、桐朋の音楽教室に入ってピアノを始めましたが、その後、弦の音色に魅力を感じ、小学校1年生からチェロを始めました。

—もし、チェリストになっていなければ、何になっていたと思いますか？

食べることがすごく好きで、食に関する仕事、例えば料理研究者、または栄養士のように資格を持って専門的に食について学びたいと考えたことがあります。また、公立中学でしたので、友人の大多数は、大学卒業後、一般企業に就職を希望している話を聞き、OLの仕事もどんな風かと興味を持ったこともありました。

—チェロ以外のご趣味はありますか？

練習で家にいる事が多く、気分転換にお料理をしています。また、ショッピングや、美術鑑賞、音楽鑑賞等も好きです。

—幼少期に思い描いていたチェリスト像というものがありましたか？

幼少期は、「チェリストになりたい」といった具体的な事は思っていませんでしたので、理想のチェリスト像といわれてもピンときませんが、もっと良い音を出したいという思いは常にありました。例えばコンチェルトのCDを大音量で聴いた時に、実際ホールで聴いたらどんな音がするのかと大変興味がありました。

—小・中学生の頃のチェロの学びについてお聞かせ下さい。

始めた頃は、桐朋の音教(千葉)にはチェロの先生がいらっしゃらなく、桐朋の学生さんが千葉までレッスンに来て下さっていたのですが、留学をされ、その方が師事していた桐朋大教授の毛利先生を御紹介いただき小学校4年生から、東京に通い始めました。今も年に1度門

下の発表会がありますが、それ以外に舞台上でチェロを弾く機会が無く、自分の勉強した成果をもっといろんな方に聴いてもらえる場が欲しいという思いで小学生の小学年よりコンクールに参加しました。中学生の頃は、いくつかのコンクールで入賞したこともあり、音楽の道に進みたいと思う気持ちが芽生えはじめ、中学2年生の頃は桐朋の高校に進学したいと思っていました。

—出られるコンクールが少ないという印象はありましたか？

コンクールが少ないとは思いませんが、チェロは、ピアノやヴァイオリンよりも人口が少ないのは確かなので、コンクールもチェロ部門というより、弦楽器部門で参加という場合が良くあります。

—チェロを学んでいく上で障害となったことはありますか？

幼少期から中学生までは、千葉から通っていたのでレッスンに通う時間が片道3時間以上かかり、学校の授業終了後に東京までレッスンに行くので、毎回帰宅時間がかかり遅くなり、距離的な難しさや、肉体的な疲れも感じました。そんな生活を続けていたら、練習時の集中力も続かないと思い、高校入学後は、家族で東京に引っ越しました。その様に環境を整えてくれた事は、両親にとっても感謝しています。

—共にチェロを学ぶ仲間の存在についてどうお考えになりますか？

小さい時は、チェロ同士の関わりは少なかったですが、高校に入学後、オケの授業や、桐朋恒例のチェロアンサンブルを通して、先輩、後輩の枠を超えチェロ科全体が仲良くなりとても良い事と思いました。今迄に内外のセミナーや音楽祭等に参加して音楽を通して多くの方と出会いがあり、知人が出来た事は私にとって大きな財産です。

—チェロが上村さんのキャラクターに合っていると伺いましたが、どのようなところがそのように感じられるのですか？

ピアノやヴァイオリンに比べ、競争も少ないと思いますし、チェロは曲数も少ないので、ゆっくりマイペースで学べる事です。1番の理由は何よりもチェロの柔らかい音色が私には心地良く感じられることです。—同じチェロを学ぶ仲間をどのように意識しましたか？意識するようになったのは、桐朋音高に入学してからです。初めて音楽を志す仲間と一緒に、冗談を交えながら音楽について語り合う事がとても楽しかったです。また反面、〇〇さんが弾いている曲を、私も弾きたいというライバル意識が高まったことも、上達するうえでは、とても良かったように思います。

—コンクールの魅力は何ですか？

コンクールの課題曲に取り組むことで、曲について「考える力」が付きました。同じ曲でも、奏者によってアプローチ方法が違い、自分では全く気づかない新たな発見が出来ます。演奏終了後、希望者は審査委員の先生方よりアドヴァイスが頂け、とても勉強になります。その時は納得できなくても、後に「そういうことか」と気付く事が出来ます。

—先の質問と重複しますが、コンクールによって学んだもの、得たものとは何ですか？

昨年の日本音コン、学生コンの頃は、他に演奏会も控えていて本選の曲は、ほとんどさらっていなかったのが、かなりハードでした。しかし、最後まであきらめずに臨

んだことが今はとても良かったと思います。どんな事があっても、最後まであきらめないという気持ちは大切だと思いました。

もう1つ、「自分を見つめなおす」事も改めて学びました。たまたま日本音コンで本選に残った4人中3人が、霧島国際音楽祭のセミナーを受講していたのですが、課題曲の引き合いをし、曲の捉え方がそれぞれ違う事を発見し、その後の練習にとても役立ちました。コンクール直前で皆ライバルなのですが、逆に友情が芽生え良い機会ともなりました。

ーコンクールに出る他の方を意識しますか？

やはり意識はしますね。ちょっとだけライバルで、みんなで切磋琢磨できる間柄です。

ーこれからのチェリストとしての展望についてお聞かせください。

桐朋卒業後は、留学しヨーロッパの空気や街並みを五感で感じ、演奏に繋げていけたらと思います。また、異文化に触れることで、自国の独特の文化や、美意識にも気づかされるのではないかと思います。今後は、日本と海外を往復し、演奏活動も行いつつ、新たなステップアップとして、海外コンクールにも挑戦したいと思っています。今は現在の留学に備え、ドイツ語の習得と、10月のヨコスカベイサイドで行われるリサイタルに向けて、練習に励んでいます。

ーこれからチェロを始めようとする子どもたちにメッセージを送るとすれば、どのような言葉を贈りますか？

練習は大切ですが、音楽以外の芸術や自然にも触れ、(芸術全て表現方法が異なるだけで共通していると思うので)色んな事に興味を持った方が良いと思います。語学はクラシックを志す上で大切な要素の1つですから、幼少から英語以外の語学も学ぶことは好ましいと思います。何をやるにも体が資本なので日頃から健康に気をつけて下さい。フルサイズのチェロはケースも含め10キロぐらいはありますので、移動も大変ですし、弦も太いのでヴァイオリンのようにはいかず、体力が必要です。こんな事を、述べてしまうとチェロ意外にする事が多く、嫌になってしまいますが、学ぶというよりも、生活に密着し楽しみの1つとして取り入れれば自然と身に付く事もあるので頑張ってください。

ー最後に第2回「チェロの日」の演奏についてご自由にお聞かせ下さい。

バッハの無伴奏を演奏し、カザルスと親交の深いクラレット先生に「よかったよ」と言って頂いたのがすごく嬉しかったです。これも、堤先生からカザルス先生とのエピソードを交えながらのレッスンをして頂いて、今までよりバッハの無伴奏を身近に感ずる事が出来たからだと思います。今回このような機会を頂き、チェロ協会の方と直接お話しすることも出来ましたし、ソロ演奏後はアマチュア、プロ問わずチェロ協会会員の皆様と合奏を共にし、一つのコミュニティーの中で新しい輪が広がった様に思いました。この様にチェロという共通点から色々な立場の方と交流できる事は素敵なことだと思います。やはり堤先生のお人柄のせいでしょうか！改めてチェロを学んでいて良かったと思いました。

今後は、今までお世話になった先生方のような尊敬できる心の広い演奏家を目指したいと思います。

事務局より

○“第3回「チェロの日」”開催のお知らせ

2013年2月9日(土)～11日(月・祝)、日本チェロ協会主催 第3回「チェロの日」を開催することを決定いたしました。初めての試みとして、小・中学生を対象とした「ジュニア・チェロ・キャンプ」を企画しております。詳しくは別途のご案内またはチェロの日特設サイト(URL:<http://cello.day.cello-congress.com>)をご覧ください。お誘い合わせの上多くの皆様にご参加頂けますよう、お申し込みを心よりお待ちしております。

○チェロビブ(チェロ用よだれかけ)のご案内

チェロ協会オリジナルグッズ『チェロビブ』をご紹介します。チェロビブは、楽器の裏版の「胸が当たる部分」を傷や汗から守ります。マジックテープでリボンの長さを調整できます。第2回「チェロの日」に販売を開始いたしました。ぜひご活用ください!



定価: 3,500円 (送料: 350円)

※複数お申込の場合は別途必要です

お問い合わせ: 日本チェロ協会事務局 office@cello.gr.jp

○ホームページ、facebookの掲載情報募集

チェロ協会のホームページ、facebookでは、会員の皆様のコンサート情報、著作物情報等のお知らせを掲載しています。ご活用頂けると幸いです。詳しくは事務局までお気軽にお問合せください。

編集後記

早いもので、事務局を担当させて頂いてから約1年が経ちました。今回、会報では岡本さん、上村さんにご協力頂き、若手チェリストのインタビューをさせて頂きました。今後もより会報が充実した内容のものになるよう努めて参りますので、ご意見・ご感想などございましたらご連絡ください。(佃)

日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第38号

2012年8月31日発行

発行: 日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-12-32

アーク森ビル22階 私書箱509号

電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310

発行人: 佃 剛

編集: 日本チェロ協会事務局

編集協力: リュウカンパニー